

語彙のリスニング・リーディング別の習得傾向と TOEIC スコアとの相関関係

古家 聡* 藤岡美香子**

An Analytical Study of English Vocabulary in Listening and Reading Based on the Correlation with the TOEIC Scores

by

Satoru FURUYA Mikako FUJIOKA

(Received October 31, 2011)

Abstract

The authors carried out holistic studies to analyze the extent to which Japanese university students' English vocabulary varies, depending on the fields of target words and the language skills. This paper makes a more detailed examination of the rate at which each English word is acquired by Japanese university students in listening and reading, with target words in business and non-business areas. Then English words which have stronger correlations with business-oriented TOEIC test scores are presented.

1. 研究の背景と目的

1979 年に日本で実施されるようになった TOEIC テスト (Test of English for International Communication) は、企業では、新入社員の英語能力の測定や配属決定の際の基準、昇進や昇格の要件として広く利用されるようになり、その受験者数は、2010 年には約 178 万人となった(国際ビジネスコミュニケーション協会、2011)。大学においても、学生が就職する際に資格として活用でき、また、英語教育上も数々のメリットがあるため(古家、2005)、TOEIC を英語の授業の中で採用するところが増加し始めたと言われるようになってから久しい。しかし、基本的に「ビジネス」における語彙をベースと

している TOEIC の受験に必要な語彙力と大学生の語彙力にはまだまだ差がある。その差を限られた時間の中で、どのようにして効率よく埋めていくかということが指導する大学教員の大きな関心事の 1 つとなっていて、筆者らも効果的な学習のための研究や語彙力増強を目指した大学テキストの出版を行ってきた(古家・藤岡、2004; 古家・藤岡、2007)。

平成 16 年度の武蔵野女子学院特別研究(古家・藤岡、2006)では、語彙力を「単語を見て意味がわかる力」として定義し、TOEIC に頻出するビジネス分野の語彙力と中学・高校の検定教科書、および、センター試験の範囲内の語彙力をそれぞれ測定し、両者の相関関係や TOEIC のスコアとの相関関係を調査した。その結果、大学生では TOEIC に頻出するビジネス分野の語彙力よりも中学・高校の検定教科書、および、センター試験に出てくる範囲内の語

* 武蔵野大学人間関係学部教授

** 東海大学熊本教養教育センター専任講師

彙力のほうが高いこと、そして、中学・高校の検定教科書、および、センター試験に出てくる範囲を超えた TOEIC に頻出するビジネス分野の語彙力と TOEIC のスコア(特にリーディングのスコア)との間には正の相関関係があることが実証された。

また、2008 年にはその発展研究として、語彙力をさらにリスニングの観点から「聞いてわかる」かどうかという要素を加えて、調査を行った。耳で聞いた場合と目で見た場合に、その語の意味を認識する力に差があるのかどうかを検証し、「リスニングにおける語彙力」「リーディングにおける語彙力」と、TOEIC のリスニングとリーディングのスコアとの関連性などを調査した。その結果、リスニングよりもリーディングにおける語彙力のほうが高いこと、リーディングにおける語彙力では、ビジネス分野と非ビジネス分野での語彙力の差が大きいこと、ビジネス分野ではリーディングとリスニングにおける語彙力に強い相関関係があることが実証された。そして、語彙力が TOEIC のスコアに大きく影響しているという結論を得た。

今回の研究は、学習者のリスニングとリーディングにおける全体としての語彙力の違いや傾向に注目した 2008 年の研究をさらに掘り下げ、1 つ 1 つの単語レベルでの認識傾向を分析した。つまり、1 つの単語で、リーディングにおいては習得されているが、リスニングの場合には意味が認識できないというような単語単位での習得傾向の分析と、TOEIC のスコアとの相関関係が特に強い単語の抽出により、より効果的な語彙学習法を提示することが、本研究の目的である。

2. リサーチ・クエスチョン

(1) リスニングとリーディングでは、それぞれの語彙の習得率に差があるだろうか。

(2) それぞれの語彙の習得状況と TOEIC のスコアには関連があるだろうか。

3. 調査方法

(1) 語彙力の定義

古家・藤岡(2006)でも示したように、Nation(2001)によると、1つの単語には18の側面が備わっているとされているが、望月他(2003)が指摘しているように、英語を母語とする人でも、すべての語についてすべての側面の知識を持っているわけではなく、時間の経過とともに有する知識の量、質ともに変化していく。また、『語彙を習得した状態』に関する一定の基準がない(投野、1997)ため、英語教育の実践者や研究者は、各自の目的に応じて「語彙を習得した」状態を定義する必要がある。

文章を聞いたり、読みながら設問に答える形式の TOEIC で要求される語彙力は、Nation(1990a)が receptive knowledge (受容語彙能力)とした「単語を見たり、聞いたりしたときに意味がわかる能力」であり、TOEIC においては、発話や文章作成において単語を操る能力は求められていない。よって、本研究では「単語を聞いた場合に意味がわかる力」を「リスニングにおける語彙力」、「単語を見て意味がわかる力」を「リーディングにおける語彙力」と定義する。

(2) 研究対象者

東京の私立大学の英語を主専攻としない 2 年生 153 名と 3、4 年生 19 名、合計 172 名が、本研究の研究対象者である。2 年生は、プレイスメントテストの結果をもとに、1 年次の 6 月から 5 レベルに分けられたクラスで、週に 6 コマの英語の授業(うち 1 コマが TOEIC の授業)を受けている。そして、1 年生の後期終了時に TOEIC IP テスト(IP テストについては、(3)-2 TOEIC テストにて説明)を受験する。このスコアによって、2 年次は 5 レベルにクラス分けされ、週に 4 コマの授業(うち 1 コマが TOEIC の授業)を受ける。3、4 年生は、前述のカリキュラムのもと、2 年生までの必修の英語の授業を修了した後、選択科目の「Advanced TOEIC」という授業を週に 1 コマ履修している。

(3) テスト内容、形式

(3)-1 語彙力テスト

分野ごとの語彙力の違いを想定し、Test B/L、B/R、NB/L、NB/R という4つの語彙力テストを作成した。B はビジネス関連語、NB は非ビジネス関連語であることを表し、L は「リスニングにおける語彙力テスト」、R は「リーディングにおける語彙力テスト」のことを示す。例えば、Test B/L は、ビジネス分野の語彙を、耳で聞いたときに意味がわかるかを測定するテストのことである。

(3)-1-1 元にしたデータ

Test B は、先行研究（古家・藤岡、2006）で作成した「TOEIC 頻出語彙リスト100」の中から、TOEIC テストでの出現頻度と頻出語彙の品詞別の割合を参考に、大学生が習得しておく必要が高いと判断される20語を出題語彙とした。「TOEIC 頻出語彙リスト100」は、公開されている TOEIC テスト3回分、TOEIC IP テスト5回分を元に、「単語レベルチェックソフト」（イーキャスト社）を利用して、中学・高校の検定教科書、および、センター試験の範囲を超えたビジネス分野の語彙を100語リストアップしたものである。

Test NB は、『JACET8000 英単語』（大学英語教育学会基本語リスト）を元にして作成した。これは、大学英語教育学会が「1冊で、中高語彙の復習から英字新聞などで頻出する時事的な用語の習得にまで対応」（大学英語教育学会基本語改訂委員会編、2003：2）するとして作成した語彙リストで、レベル1と2の2000語で、英字新聞の75%程度、易しい読み物の90%近くがカバーできるとされている。このリストに付属の問題作成補助 CD-ROM を利用して、1000語レベルから4000語レベルまでの4レベルから5語ずつ、中学・高校の検定教科書、および、センター試験の範囲内で、ビジネス分野以外の単語を合計20語抽出した。

(3)-1-2 問題形式

前述の方法で抽出された Test B、Test NB 用の20語ずつをそれぞれの target word とし、target word が1語ずつ含まれる英文を作成。その英文を聞く、または読んで、target word の文中での意味を日本語で記述してもらう形式のテストとした。Test B/L と B/R、Test NB/L と NB/R では、target word は同じだが、それを含む英文は異なっている（調査に使用した4種類の語彙力テストは付録を参照）。

(3)-1-3 テストの実施方法

4種類の語彙力テストを2回の TOEIC の授業に分けて実施した。4種類のテストは、1回目に B/R と NB/L、2回目に B/L と NB/R という組み合わせとした。B/L と NB/L では、読まれる英文と英文の間隔は15秒で、全問の所要時間が約7分、B/R と NB/R はそれぞれ制限時間10分で行った。

(3)-2 TOEIC テスト

TOEIC テストの受験方法には、公開テストと IP テストと言われる団体特別受験制度によるものがある。大学等で行われているのは IP テストであり、2010年の受験者数は、総受験者約178万人のうち約99万人であった。2つのテストの結果に取り扱い上の優劣はなく、例えば就職活動の際に、どちらのテストの結果であっても同等に英語力を証明するものとして提示することができる。

公開テストと IP テストはどちらも、Listening と Reading の2つの Part から構成され、各 Part の問題数は100問である。それぞれ5点～495点の範囲の5点刻みでスコアが提示され、満点は990点。試験時間は、Listening Part が45分、Reading Part が75分で行われる。

4. 結果と考察

(1) TOEIC テストのスコア

本研究の研究対象者と2010年度に高校、短大、大学などの教育機関で実施された TOEIC IP テスト

の受験者全体の平均点は以下の通りである。

研究対象者 学校での団体受験全体
(172 名) (476,230 名)

Listening Part	235 点	249 点
Reading Part	161 点	188 点
Total	396 点	437 点

(国際ビジネスコミュニケーション協会、2011)

学校での団体受験のスコア分布を見ると、Total では 345～394 点が一番多く 14.5%、次に 395～444 点 が 13.6% となっている。Listening Part では 220 ～244 点が一番多く 15.7%、Reading Part では 145 ～169 点の得点者が一番多く 13.6% となっている。これらのことから、本研究の研究対象者は、教育機 関で TOEIC IP テストを受験した学生や生徒の平均 的な英語力を有していると判断できる。

(2) 語彙力テストの結果

4 種類の語彙力テストにおける各語彙の正答率は 以下の通りである。

B/L		B/R	
document	45.93	conference	59.88
expand	41.27	accountant	55.81
conference	31.97	submit	55.81
submit	30.23	expand	53.48
secretarial	29.65	colleague	52.90
payment	25.58	document	48.25
colleague	21.51	payment	47.09
investment	16.27	notify	45.34
personnel	15.69	secretarial	38.37
headquarters	13.95	insurance	31.97
notify	13.37	firm	27.32
accountant	12.79	investment	26.74
guarantee	12.20	contract	20.34
contract	11.62	headquarters	20.34
firm	9.88	guarantee	19.76
application	6.98	revise	19.76
insurance	6.40	personnel	18.60
refund	5.81	application	16.86

brochure	2.91	refund	7.56
revise	1.74	brochure	5.81

(単位 : %)

NB/L		NB/R	
government	65.69	government	70.34
desire	33.72	climate	67.44
impressive	26.74	failure	65.11
failure	25.58	remain	63.37
remain	24.41	impressive	59.88
criticize	19.18	sort	51.74
method	18.60	desire	44.76
criminal	15.11	method	44.76
obey	15.11	obey	44.18
sort	15.11	political	41.86
determine	14.53	voter	35.46
political	11.62	criticize	29.65
evidence	7.56	criminal	29.06
climate	5.81	lung	29.06
excessive	2.33	determine	27.90
residential	2.33	evidence	19.76
respectively	2.33	alter	15.69
alter	0.58	excessive	11.04
lung	0.58	respectively	6.98
voter	0	residential	5.23

(単位 : %)

B/L と B/R、NB/L と NB/R に出題された各語彙 の正答率を比較すると、Test B、Test NB とともに、 すべての語で Test L よりも Test R のほうが正答率 が高い。つまり、ビジネス分野の語彙 20 語、非ビ ジネス分野の語彙 20 語はすべて、「リスニング」よ りも「リーディング」において正答率が高かった。

この「すべての語彙で、リスニングよりもリーデ ィングにおける正答率が高い」という結果が、統計 的に有意なものであるかどうか、つまり、「ある語彙 が、リーディングとリスニングにおいて習得率に差 があるのは、偶然によるものではない」と言えるの

かどうかを検証した。これは、それぞれの語彙のリーディングにおける正答率とリスニングにおける正答率の差に関する t 統計量の値で調査した。ここで、t 分布を用いることの妥当性は中心極限定理に基づく。統計量の値は、2.33 を超えると 1 %水準で有意差あり、1.65 を超えると 5 %水準で有意差ありと判断される。また、数値が大きければ大きいほど、比較する両者の差が大きいこと、つまり本研究においては、ある語彙のリーディングとリスニングにおける習得率に差があることを示す。

B/L と B/R における各語彙の正答率の差とそれに関する t 統計量の値

accountant	0.430	10.85**
notify	0.319	8.73**
colleague	0.313	8.61**
conference	0.279	8.13**
insurance	0.255	7.66**
submit	0.255	6.87**
payment	0.215	5.62**
revise	0.180	5.69**
firm	0.174	5.57**
expand	0.122	4.07**
investment	0.104	3.38**
application	0.098	3.51**
contract	0.087	3.37**
secretarial	0.087	2.65**
guarantee	0.075	3.23**
headquarters	0.064	3.41**
brochure	0.029	2.26*
personnel	0.029	1.14
document	0.023	0.63
refund	0.017	1.34

(*p<.05 **p<.01)

NB/L と NB/R における各語彙の正答率の差とそれに関する t 統計量の値

climate	0.616	16.57**
failure	0.395	10.32**
remain	0.390	9.75**
sort	0.366	9.47**
voter	0.355	9.69**
impressive	0.331	8.75**
political	0.302	8.16**
obey	0.291	8.14**
lung	0.284	8.25**
method	0.261	7.78**
alter	0.151	5.51**
criminal	0.140	3.84**
determine	0.134	3.93**
evidence	0.122	4.42**
desire	0.110	3.20**
criticize	0.105	3.51**
excessive	0.087	3.77**
respectively	0.046	2.33**
government	0.046	1.13
residential	0.029	1.51

(*p<.05 **p<.01)

ビジネス分野の語彙では、20 語のうち 16 語で 1%水準で有意差があり、1 語(brochure)は 5%水準で有意差があった。非ビジネス分野の語彙では、20 語のうち 18 語で 1%水準で有意差があった。よって、ビジネス分野、非ビジネス分野ともに、ほとんどの語彙について、リーディングとリスニングでの習得率の差は偶然ではないと判断できるレベルであった。

その中で、リーディングとリスニングの間で特に習得率に大きな差がある語彙を、リーディングの正答率とリスニングの正答率の差の平均値を超えているものとして抽出すると、ビジネス分野では 9 語(accountant、notify、colleague、conference、insurance、submit、payment、revise、firm)、非ビジネス分野では 10 語(climate、failure、remain、

sort、voter、impressive、political、obey、lung、method)が該当する。正答率の差が小さいということは、リーディングとリスニングの両方で習得率が低い、または両方で習得率が高い。逆にこの値が大きいのは、本研究においては、リーディングではよく習得されているが、リスニングでの習得率が低い語ということである。ビジネス分野の語彙と比較すると、非ビジネス分野の語彙のほうが、リーディングとリスニングの習得率の差が大きい。つまり、非ビジネス分野の語彙は、目で見ただけでは意味がわかるが、耳で聞くと意味が認識できないケースが多いことがわかる。ここに抽出された語彙の特徴を検証したい。

・音節数

該当する非ビジネス分野の語彙には、音節が少ない語が比較的多い。1 音節の語が 2 語、2 音節の語が 6 語、3 音節の語が 1 語、4 音節の語が 1 語である（出題は、1 音節が 2 語、2 音節が 8 語、3 音節が 7 語、4 音節が 3 語）。これは、短い語の場合、リスニングではその単語を認識する手がかりが少なくなるために、習得が難しいことを示しているのではないだろうか。

・JACET8000 のレベル

該当する非ビジネス分野の語彙の JACET8000 におけるレベルは、1000 語レベルが 4 語、2000 語レベルが 2 語、3000 語レベルが 3 語、4000 語レベルが 1 語である、これらの語彙は、その単語を見た場合には意味が認識できるので、JACET8000 で 3000 語レベルまでの語彙には、見た場合は意味がわかり、聞くと意味が認識できない語が多いのではないかと推測できる。つまり、本研究の研究対象者においては、3000 語レベルまでの語彙とそれを超えるレベルの語彙では、習得傾向が異なる可能性がある。

・発音

Rodgers(1969)は、発音の難しさも単語の難易度

を決める要因であるとし、難易度決定への影響力としては、品詞の種類よりも発音の難しさのほうが大きいと述べている。特に、音声が入る「リスニングにおける語彙力」については、発音の難しさが大きく影響するだろう。目で見ただけでは意味が認識でき、耳で聞いた場合には認識できない傾向があるこれらの語彙は、本研究の研究対象者である英語を学ぶ日本人大学生にとっては、発音が難しい単語である可能性が想定される。

・品詞別

該当するビジネス分野の語彙は、名詞が 6 語、動詞が 3 語（出題は、名詞が 14、形容詞が 1、動詞が 5）で、非ビジネス分野では、名詞が 6 語、形容詞が 2 語、動詞が 2 語である（出題は、名詞が 9、形容詞が 4、動詞が 6、副詞が 1）。どちらの分野の語彙でも、名詞がもっとも多い。出題数に占める割合から見ると、ビジネス分野の語彙は必ずしも大きな比率を占めているわけではないが、望月他(2003)や Rodgers(1969)の「統語的要因では、名詞が一番覚えやすく、習得しやすい」という主張を支持する傾向にある結果だと言えるだろう。

(3) TOEIC スコアと各語彙の習得率との関係

前項では、Test B/L、B/R、NB/L、NB/R の 4 つの語彙力テストの結果を、各語彙の習得率に焦点をあてて検証した。本項では、それぞれの語彙の習得率と TOEIC スコアとの間にどのような関係があるかを標本相関係数を用いて検証する。語彙力テストの結果は、ある語彙の意味が正確に答えられた場合は 1 点、正確に答えられなかった場合は 0 点で集計した。この場合は中心極限定理が適用できないため、t 分布による検定には触れない。

計算後、標本相関係数に基づいて、各語彙を TOEIC の Listening Part、Reading Part、Total スコアとの相関関係によって、1 つの基準として「弱い相関関係がある」（標本相関係数 < 0.2 ）、「やや強い相関関係がある」（ $0.2 \leq$ 標本相関係数 < 0.4 ）、「強

い相関関係がある」($0.4 \leq$ 標本相関係数)の3つのグループに分けた。その結果、どの語彙の TOEIC スコアとの相関関係を見ても、Listening Part、Reading Part、Total スコアの重なり率が 73%~100%と高かった。つまり、TOEIC の Listening Part との相関関係が「強い」単語は、Reading Part や Total スコアとの相関関係も「強い」確率が、語彙によって 75%弱~100%であった。これは、TOEIC テストの Part による違いはあまりないと言える重なり率であると判断し、各語彙の習得率と TOEIC の Total スコアとの標本相関係数のみを以下に提示し、検証を行う。

B/L		B/R	
application	.32	application	.25
headquarters	.34	headquarters	.35
conference	.35	conference	.55
expand	.45	expand	.51
accountant	.30	accountant	.35
colleague	.41	colleague	.57
insurance	.24	insurance	.31
investment	.29	investment	.43
submit	.48	submit	.45
secretarial	.49	secretarial	.42
payment	.41	payment	.46
contract	.24	contract	.35
personnel	.29	personnel	.39
guarantee	.48	guarantee	.39
brochure	.49	brochure	.20
revise	.30	revise	.35
refund	.22	refund	.25
document	.36	document	.44
notify	.44	notify	.42
firm	.22	firm	.37

	NB/L		NB/R
remain	.35	remain	.49
sort	.30	sort	.50
method	.42	method	.53
political	.38	political	.55
government	.25	government	.27
evidence	.33	evidence	.50
failure	.45	failure	.48
climate	.27	climate	.41
desire	.41	desire	.38
determine	.32	determine	.39
lung	.06	lung	.46
obey	.32	obey	.43
criticize	.52	criticize	.46
impressive	.47	impressive	.47
criminal	.33	criminal	.28
residential	.09	residential	.21
voter	/	voter	.47
respectively	.15	respectively	.23
alter	.02	alter	.33
excessive	.24	excessive	.36

「/」：正答した研究対象者がゼロであったため測定不能

以上の表から、TOEIC スコアと「強い相関関係がある」語彙($0.4 \leq$ 標本相関係数)を抽出すると以下の通りになる。

B/L: expand、colleague、submit、secretarial、payment、guarantee、brochure、notify

B/R: conference、expand、colleague、investment、submit、secretarial、payment、document、notify、

NB/L: method、failure、desire、criticize、impressive

NB/R: remain、sort、method、political、evidence、failure、climate、lung、obey、criticize、impressive、voter

以上の語彙を分析したい。まず、Test NB/R に、出題 20 語のうち 12 語と TOEIC スコアとの相関関係が強い語彙がもっとも多いことがわかる。これは、TOEIC スコアが高い研究対象者は、目で見た場合に認識できる語彙が、ビジネス分野の語彙と比較して、中学・高校の検定教科書、および、センター試験の範囲内に多いということを示している。

次に、Test B/L と B/R、Test NB/L と NB/R で共通の語彙は、expand、colleague、submit、secretarial、payment、notify、method、failure、criticize、impressive の 10 語である。これらの語は、TOEIC スコアが高い研究対象者は、目で見ても、耳で聞いても、意味を認識することができる語彙ということになる。このうち、ビジネス分野では、colleague、submit、payment、notify の 4 語、非ビジネス分野では method、failure、impressive の 3 語が、4・(2) で抽出したリーディングに比較して、リスニングでの習得率が特に低い語彙と重複する。つまり、これらの語彙は、TOEIC のスコアが高い研究対象者は、耳で聞いた場合と目で見た場合のどちらも意味を認識でき、スコアが高くない対象者は目で見た場合にしか意味が認識できない状況にある可能性がある。

次に、習得率との関係を見るために、TOEIC スコアとの関係が強い語彙の中で、習得率が低いものを語彙力テストで正答率が 30%未満と設定して抽出すると以下ようになる。(数字の単位は%)

B/L: brochure 2.9、guarantee 12.2、notify 13.3、colleague 21.5、payment 25.5、secretarial 29.6

B/R: investment 26.7

NB/L: method 18.6、criticize 19.1、failure 25.5
impressive 26.7

NB/R: evidence 19.7、lung 29.0、criticize 29.0

以上の単語が TOEIC のスコアと強い相関関係がある語彙の数に占める割合は、B/L が 6/8、B/R が 1/9、NB/L が 4/5、NB/R が 3/12 となっており、TOEIC のスコアと関係が強い傾向にある語彙だが、リスニングでは習得されていない語彙が多いことが明らかになっている。

5. リサーチ・クエスチョンの検証

(1)リスニングとリーディングでは、それぞれの語彙の習得率に差があるだろうか。

検証されたビジネス分野の 20 語と非ビジネス分野の 20 語のすべてにおいて、リスニングよりもリーディングにおける習得率のほうが高かった。耳で聞いた場合と目で見た場合では語彙の習得率に違いがあることは、話される英語を理解するには、書かれた英語を理解するのに必要な語彙の半分が必要 (Nation, 1990b) という先行研究の結果や、古家・藤岡(2008)で、リスニングとリーディングにおける語彙力を、単語レベルではなく、20 点満点の合計点で比較した際に得た、「英語を学ぶ日本人学生のリスニングとリーディングにおける語彙力の間には差があり、リーディングにおける語彙力のほうが高い」という結果からも十分に予測できた。しかし、語彙の分野を問わず、1 語 1 語のレベルで、リスニングよりもリーディングでよく習得されていることが裏付けられたこと、そして、その傾向が特に強い語彙を抽出できたことは、意味があると考ええる。

特にその差が大きな語彙は、ビジネス分野では accountant、notify、colleague、conference、insurance、submit、payment、revise、firm の 9 語、非ビジネス分野では climate、failure、remain、sort、voter、impressive、political、obey、lung、method の 10 語であった。これらの語彙に見られる傾向としては、比較的習得しやすいと言われている「名詞」が多いこと、耳で聞いた場合に、単語をイメージし、意味を認識するための手がかりが少なくなる音節数が少なく短い語彙であること、などが挙げられる。また、JACET8000 の 4000 語レベルまでの語彙で調査した非ビジネス分野の語彙に関しては、耳で聞いた場合と目で見た場合の習得率に大きな差があるのは、JACET8000 の 3000 語レベルまでの語彙で、4000 語レベルでは、耳で聞いた場合も目で見た場合も意味を認識することができない可能性が示された。

(2)それぞれの語彙の習得状況と TOEIC のスコアには関連があるだろうか。

Test NB/L に出題された 4 語を除き、強弱の差はあったが、TOEIC のスコアとの有意な相関関係が確認された。特に、ビジネス分野では *expand*、*colleague*、*submit*、*secretarial*、*payment*、*notify* の 6 語、非ビジネス分野では *method*、*failure*、*criticize*、*impressive* の 4 語が、リスニングとリーディングの両方において、意味を認識できるかどうか TOEIC のスコアと強い相関関係がある単語として抽出された。

この中で、*colleague*、*notify*、*submit*、*payment*、*failure*、*impressive*、*method* の 7 語は、TOEIC スコアの高い研究対象者のみが音声でも文字でも意味を認識することができ、そうでない対象者は文字でのみ意味を認識できる語彙であることもわかった。また、分野を問わず、TOEIC のスコアとの相関関係が強いとして抽出されながら、耳で聞いた場合にはその意味を認識できない単語が多い状況も判明した。これは、TOEIC のスコアに影響しているのは、抽出された語彙を耳で聞いた場合に意味がわかるかどうかだということを示していると言えるだろう。

また、4 種類の語彙力テストの中で、Test NB/R に TOEIC スコアとの相関関係が強い語彙がもっとも多いという結果も出た。これは、基本的に「ビジネス」における語彙をベースにしている TOEIC テストではあるが、中学・高校の検定教科書、および、センター試験の範囲内の非ビジネス分野の語彙を習得しているかどうか、TOEIC スコアに影響することが示唆されている。

6. 結論

これらの結果が、大学での英語教育にどのような示唆を与えているかを考えたい。

(1)リーディングでは習得されていて、リスニングでは意味を認識できない単語が多かった。その原因の 1 つとしては、古家・藤岡(2008)でも述べたよう

に、日本の中学校・高校での英語教育が、長年にわたり読解と文法学習に重点が置かれ、学習者は、英語の学習を始めて以来、英語を文字で見るリーディングより、音声で聞くリスニングのアクティビティの絶対量が不足していることが考えられる。これらの語彙は、目で見ただけでは意味を認識することができるのだから、どのように発音されるのかという音声面での強化を集中して行えば、「スペリング」「音声」「意味」の 3 つの要素がつながり、耳で聞いた場合にも、目で見ただけと同様に意味を認識できるようになるのは、比較的短時間で可能であろう。この際に、音声での認識が一見易しそうに見える音節数の少ない単語が、かえって難しい可能性があることや発音が難しい語彙は、そうでない語彙に比べると、習得に時間がかかることにも注意したい。

(2)非ビジネス分野のリーディングにおける語彙力を測ったテストで、TOEIC のスコアと強い関係がある語彙の数をもっとも多かった。これは、「ビジネス」における語彙をベースにした TOEIC ではあるが、そのスコアアップにはビジネス分野の語彙だけでなく、より一般的な語彙の基礎的な力をつけることが必要であるということを示している。

(3)TOEIC のスコアとの相関関係が強く、現時点では習得率が低い単語が特定された。語彙力テストに出題された 40 語の中で、という限定された範囲の中ではあるが、これらの語彙が TOEIC のスコアアップの *key word* であり、早期に習得を目指すべき *target word* である。耳で聞いても、目で見ても、これらの単語の意味を認識できるように促すエクササイズを行うことが、限られた時間の中で行う効果的な語彙学習につながっていくと考える。

(4)今後の課題としてまず、本研究では「ある単語の習得率が低い」という状況を、習得率が 30%未満とした点が挙げられるだろう。どのくらいを高い、低いというのかは、状況により異なる。例えば、テストの出題範囲としていくつかの単語を提示し、意味を覚えてくるように指示して、クラスの正答率が 50%だった場合と、範囲のない *proficiency test* で

クラスの半数が正解した場合では、同じ 50% の正解率も評価が異なるだろう。「語彙を習得した状態」に関する一定の基準がなく、英語教育の実践者や研究者は、各自の目的に応じて「語彙を習得した」状態を定義する必要があるのと同様に、どの程度の正答率をもって、その母集団におけるある単語の習得率が高い、低いとするかは、テスト範囲の有無、テストの目的、到達目標にそって各自が設定する必要があるだろう。本研究で作成、使用した語彙力テストは、学習後の成果を見るために、決められた範囲から出題される achievement test ではないため、30% 未満の正答率を「習得率が低い語彙」としたが、これが妥当なものであったかどうかは議論の余地があるだろう。

同様に、リーディングとリスニングの間で特に習得率に大きな差がある語彙を、リーディングの正答率とリスニングの正答率の差の平均値を超えているものとした点も議論される点であろう。

また、本研究の対象者数は 172 名で、決して少なくはないが、テストをした語彙数が、ビジネス・非ビジネス分野でそれぞれ 20 語と少ない。ビジネス分野では、古家・藤岡(2006)で作成された「TOEIC 頻出語彙リスト 100」にある他の 80 語について、さらには、中條他(2005)で作成された 640 語について、非ビジネス分野では、JACET8000 の中からもっと多くの単語を抽出して大規模な同様の調査をすることができれば、本研究で得られたいくつかの示唆を確認することができるかもしれない。

謝辞

本研究のデータの統計処理に関して、東海大学総合経営学部教授今田恒久先生に、いろいろとご助言をいただき、また、計算処理を行っていただきました。ここに、深く感謝申し上げます。

参考文献

1) Nation, I.S.P. (1990). *Teaching & Learning Vocabulary*, Heinle & Heinle Publishers

2) Nation, I.S.P. (2001). *Learning Vocabulary in Another Language*, CUP
 3) Read, J. (2000). *Assessing Vocabulary*, CUP
 4) Rodgers, T.S. (1969). 'On measuring vocabulary difficulty: an analysis of item variables in learning Russian-English vocabulary pairs', *International Review of Applied Linguistics*. 7, pp.327-43
 5) Schmitt, N. (2000). *VOCABULARY IN LANGUAGE TEACHING*, CUP
 6) 門田修平 編著(2003) 『英語のメンタルレキシコン』 松柏社
 7) 門田修平・野呂忠司 編著(2001) 『英語リーディングの認知メカニズム』 くろしお出版
 8) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) 『TOEIC テスト DATA&ANALYSIS 2010』 国際ビジネスコミュニケーション協会
 9) 大学英語教育学会基本語改訂委員会編(2003) 『大学英語教育学会基本語リスト JACET 8000』 大学英語教育学会
 10) 中條 清美・Michael Genung (2005) 『British National Corpus を活用した TOEIC テストの分析—語彙活用水準の定量化と特徴単語の抽出』 国際ビジネスコミュニケーション協会
 11) 投野由紀夫 編著 (1997) 『英語語彙習得論』 河源社
 12) 古家 聡 (2005) 「大学における英語教育改革—武蔵野大学人間関係学部の事例研究」『武蔵野大学人間関係学部紀要』第 2 号、pp.87-97
 13) 古家 聡・藤岡美香子 (2004) 『Vocabulary Building for the TOEIC Test』 三修社
 14) 古家 聡・藤岡美香子 (2006) 「大学生に求められる英語語彙の分析」『武蔵野大学人間関係学部紀要』第 3 号、pp.75-87
 15) 古家 聡・藤岡美香子 (2007) 『新 TOEIC テスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習』 三修社
 16) 古家 聡・藤岡美香子 (2008) 「リーディングと

- リスニングにおける大学生の英語語彙力の比較」
『武蔵野大学人間関係学部紀要』第 5 号、pp.13-27
- 17) 水本 篤・竹内 理 (2009) 『語彙学習方略と TOEIC スコアーその関係の詳細な考察―』 国際ビジネスコミュニケーション協会
- 18) 望月正道 (1998) 「日本人学習者のための英語語彙サイズテスト」『語学教育研究所紀要』第 12 巻、pp.27-53
- 19) 望月正道・相澤一美・投野由紀夫 (2003) 『英語語彙の指導マニュアル』大修館書店

付録

Vocabulary Test (B/L)

CDを聞いて、各文の空欄に入る単語のスペリングを英語で、また、その語の文中での意味を日本語で書きなさい。

1. The number of job () shows how attractive the position is.
2. This company has a plan to move its () to the newly developed area.
3. We will announce the new product at a news ().
4. This is a good chance to () our business because of the new law.
5. He studied hard in order to pass the test to become an ().
6. Our () from the Tokyo office will meet you at the airport.
7. All company workers receive health ().
8. I would like a low-risk ().
9. I'd like to check the report before you () it.
10. Her () skills have helped her boss to work effectively.
11. You can choose the means of ().
12. Most of the staff members work on a short term ().

13. I received a phone call from the () manager about the next interview.
14. We are proud to () the best quality with the cheapest price.
15. We will get a discount if we bring this ().
16. The original version is very complicated, so it will take time to () it.
17. Usually we can't get a () without receipts.
18. I need half an hour to complete the ().
19. Could you () us when you can join our project?
20. This () is doing business in 20 nations.

Vocabulary Test (B/R)

各文の下線部の単語の文中での意味を日本語で書きなさい。

1. There have been over 300 applications for the post.
2. The sales data from the previous day is sent to the headquarters.
3. Mr. Lewis is leaving for New York to attend a conference there.
4. The company has a plan to expand its service into South America.
5. My sister works as an accountant.
6. I joined the seminar with some colleagues.
7. About \$3,000 of the damage was covered by insurance.
8. It is risky to put all the money into one type of investment.
9. You have to submit the sales report by the end of this week.
10. She takes an evening class to learn secretarial skills after work.

11. Payment must be made at the time of the order, not when you receive the goods.
12. The two directors shook hands firmly after signing the contract.
13. You should give the form to the personnel department by Friday.
14. All the computers sold in this store are guaranteed for three years.
15. Some information in the brochure was out of date.
16. This book needs to be revised since the data in it is rather old.
17. We will make no refund for any reason once you open packages.
18. I have prepared the necessary documents to get a passport.
19. If you lose your credit card, you should notify the Help Desk as soon as possible.
20. Our firm's new office will be located in the building opposite to the station.

Vocabulary Test (NB/L)

CD を聞いて、各文の空欄に入る単語のスペリングを英語で、また、その語の文中での意味を日本語で書きなさい。

1. Many restaurants downtown () open after midnight on weekends.
2. A new () of dance is becoming popular among young people.
3. Students who were taught by the new () got higher scores on the test.
4. He left the () party since he didn't agree with their policies.
5. The new () will be formed by the end of next week.
6. They have heard () that he stole the car.
7. When you try something new, you shouldn't be

- afraid of ().
8. () may have an effect on each person's personality.
9. It is natural that everyone should () to live a happy life.
10. I haven't () whether to attend the party or not.
11. Top athletes usually have strong () power.
12. Children were supposed to () their parents in the past.
13. The new movie has been () because of the many violent scenes.
14. Her way of speaking is so () that people will never forget her.
15. He is calm and quiet, and doesn't look like a ().
16. Some hotels have () space for people who stay for a long time.
17. This time () will make up their mind at the last moment.
18. My two children became a policeman and a nurse, ().
19. They () one room into two smaller rooms.
20. Because () force was used, some people got injured in the protest.

Vocabulary Test (NB/R)

各文の下線部の単語の文中での意味を日本語で書きなさい。

1. The baby remained silent for a long time.
2. Various sorts of coffee beans are sold in this shop.
3. They have tried many modern methods at the factory.
4. We had better not talk about political problems at meals.

5. The local government is going to introduce a new rule.
6. We haven't got enough evidence to prove our point.
7. If you want to succeed next time, you should learn from your failure this time.
8. Many people go to Hawaii in winter to enjoy the warm climate there.
9. He desired to get good scores on the tests.
10. The cause of the terrible accident was never determined.
11. Smoking can cause serious lung problems.
12. There are students who don't obey teachers and make trouble.
13. It's easy to criticize what other people do.
14. He made an impressive speech in front of many people.
15. The police, searching for the criminal, visit every house for information.
16. A friend of mine has bought a house in a quiet residential area.
17. Voters have made a line outside the voting station.
18. The couple has a boy and a girl, who are ten and seven, respectively.
19. She has put on weight and has to alter her clothes.
20. We have to be careful about the excessive use of medicine.